



総務省 自治財政局 地方債課 課長補佐
進 龍太郎 Ryutarō Shin

平成 13年 4月 総務省採用
 同 自治財政局調整課
 平成 13年 10月 兵庫県長期ビジョン部市町振興課
 平成 14年 4月 同 企画管理部企画調整局財政課
 平成 15年 4月 内閣府政策統括官付参事官(企画調査担当)付
 平成 16年 4月 総務省自治税務局固定資産税課
 平成 18年 4月 岡山市企画局統括審議監
 平成 19年 4月 同 企画局副局長
 平成 20年 4月 同 兼 特命調整担当局長
 平成 21年 4月 同 企画局長
 平成 22年 4月 総務省自治行政局地域自立応援課過疎対策室 課長補佐
 平成 23年 4月 愛媛県総務部管理局市町振興課長
 平成 25年 8月 総務省大臣官房総務課課長補佐
 平成 26年 7月 現職



パネルディスカッションに講演者として出席

社会を直視した制度設計を

ラグビーW杯2019と2020オリ・パラ東京大会という国家的イベントをどう日本全体の活性化につなげていくか。地方創生の観点からも大切な課題です。現場で実際に見て話をし、イメージを膨らませるため、昨秋、ラグビーW杯が盛り上がっていた頃、私は、花園ラグビー場にいました。

制度設計を行う

私は現在、地方債の制度設計、運用を担当し、この一年でも、地方創生施策から環境対策、情報セキュリティ対策等、様々な課題について議論を行ってきました。これらの課題の解決に、地方団体の役割は大きく、地方財政の議論は避けて通れません。そして、別々の方向性を向いた、様々な関係者の思いが錯綜する中、解決策を巡って頭を悩ませる日々が続きます。何が問題なのか、関係者の思いは何か、費用はどうか、そして、そもそもどうあるべきなのか、議論は尽きません。

また、地方債課では、共同発行地方債の発行条件交渉も行っています。金融機関と債券の条件交渉を行うとは思っていませんでしたが、実際に地方債が運用されている世界を知らずに制度設計を行うことは出来ません。入省15年目で初めてのフィールドは、生き物である経済に触れる非常に刺激的な機会となっています。

キャリアパスが裏付ける人間力

私が官庁訪問をした際、何よりも惹かれたのは、実態を踏まえたビジョンを生き活きと語られる先輩方の魅力あふれる人間力でした。それは、国では制度を所管する立場として幅広い分野の仕事を行い、地方ではそれぞれの地域で人や現場に直接ぶつかりながら組織のマネジメントも求められるキャリアパスが裏付けただけに違いないと思います。

私もこれまで様々な仕事をする機会を得ました。国では、10年に一度の固定資産税制度の改正や、地域おこし協力隊など移住交流施策や集落対策に携わりました。また、兵庫県では震災復興部局の予算を担当し、岡山市では政令市移行に携わり、愛媛県では県・市町連携の立ち上げで県中を駆けずり回りました。そこでは、様々な人・土地との出会いがあり、東京育ちの私にとって大なる刺激でした。

その中でも岡山市では、合併・政令市移行後のまちづくりを巡って喧々諤々の議論でした。一つ間違えると合併・政令市移行がつぶれてしまう、というプレッシャーの中、議会はもとより町内会や経済界の方々との膝詰め談判の日々は、苦しいものでしたが、この逃げ場のないやりとりは、私にとってかけがえのない財産です。政令市

移行を成し遂げた瞬間に職員と交わした握手は今でも忘れることが出来ません。

限りないフィールドで

現実の社会ニーズや運用実態等、現場が見えていないと、制度はミスマッチを起し、役に立ちません。日本は、都市や農村、山間部や沿岸部等様々な地域から成り、多様な文化や考え方が存在します。この制度は何をターゲットにしているのか、その先にある地域、文化や人を具体的に想像できるかが制度設計の成否に直結します。そして、最後はどう制度を作り上げるか、自分の価値観、考え方が試されます。

このトータルでの人間力を鍛えてくれるフィールドが総務省には広がっています。限りないフィールドに飛び込み、社会を直視した活きた制度を皆さん一緒に作りませんか。



愛媛県時代に職場の皆さんと

マイナンバー制度導入期に立ち会う

「1人に1つ、マイナンバー。」今、総務省でもホットな政策テーマと言っても過言ではありません。本年1月から、税や社会保障、災害対策といった行政手続でのマイナンバーの利用、また写真付き身分証明書にもなるICチップ入りのマイナンバーカードの交付が始まりました。

住民票のある全住民に番号を付し、国民の利便性向上、行政の効率化、公平・公正な社会の実現を図る、まさに「暮らしの中に総務省」の象徴と言える国家プロジェクトの導入期に際し、日々緊張感とともに大きなやりがいを感じています。

制度をつくる-国での経験-

今から15年前、私が総務省を志したのは、地方制度という国の統治機構のあり方そのものと言える大きな制度の企画立案に携わることができること、また住民に身近な地方自治体の目線で国のあり方を横断的に考えることができることに大きな魅力を感じたのがきっかけでした。

これまでの本省の経験の中で特に印象に残っているのは、自治行政局行政課でまさに初心と言えり地方制度の企画立案に取り組んだことです。

当時は第一次地方分権改革が結実し、その後市町村合併の進展も契機となり、更なる分権改革と道州制推進が大きな政治課題としてクロー



石川県議会で旧自治省の先輩でもある谷本知事の後方にて

総務省 自治行政局 住民制度課 課長補佐
内海 隆明 Takaaki Utsumi

平成 14年 4月 総務省採用
 同 自治行政局自治政策課
 平成 14年 10月 広島県地域振興部市町村分権総室市町村行政室
 平成 15年 8月 総務省消防庁消防課
 平成 17年 4月 同 総務課
 平成 18年 4月 同 自治行政局合併推進課
 平成 18年 7月 同 行政課
 平成 20年 4月 石川県環境部地球温暖化対策室次長
 平成 20年 7月 併任 環境部環境政策課担当課長
 平成 21年 4月 同 企画振興部企画課長
 平成 22年 4月 同 総務部財政課長
 平成 24年 4月 総務省自治財政局地方債課課長補佐
 併任 財務調査課課長補佐
 平成 25年 4月 同 自治財政局地方債課課長補佐
 平成 26年 7月 現職

ズアップされた時期です。地方分権改革推進法の制定など、第二次分権改革の推進体制の整備を進めました。また地方制度の企画立案を行うことは、行政の分野ごとに国と地方の役割分担を考える、まさに地方の目線で国のあり方を横断的に考えることに他なりません。各分野において地方自治体が住民ニーズに応じた行政を行えるよう自由度を高める改革に取り組みました。

制度を動かす-地方での経験-

総務省のキャリアパスの大きな特色は、地方自治体での勤務経験です。官庁訪問の頃、日本全国の見知らぬ土地に飛び込み、新しい仲間と仕事をすることで自身を成長させていく、その経験を通して非常に人間味あふれる諸先輩の姿に、高校時代全国から集まった友人達との寮生活を通して多くのことを吸収してきた自分の経験も重ね合わせ、共感とともに憧れを抱いたことが就職先として総務省を選ぶ決め手となりました。

広島県では末席係員として、「平成の大合併」の議論真っ盛りの中、市町村の自主的合併を支援することを通し、仕事のやり方を一から覚えしました。後に本省でも合併推進の仕事に携わり、「現場での経験を国での政策立案に活かす」という総務省職員の醍醐味も身をもって実感することができました。石川県では管理職として、長時間に迫る北陸新幹線の開業を県の発展にどうつなげていくかをメインテーマに、特に財政

課長時代には全ての事業を査定しながら県の進むべき姿を予算として組み立てるといった仕事を若干30歳で経験しました。予算編成のピーク期は、毎日休みなく夜中まで、精神的・肉体的にも追い詰められながら、皆で予算をつくり上げたときの達成感は何事にも代えられません。

住民目線で国のあり方を考える

地方自治体の目線で国のあり方を考えるということは、その先にいる住民目線で国のあり方を考えるということです。どんな場面でも霞ヶ関の論理だけにとらわれず、住民目線で政策判断が行えるというのは総務省の大きな特徴の一つであり、そうしたものの捉え方は国と地方を相互に行き来することによって培われていきます。

様々な環境に身を置きながら自分を成長させていく日々は刺激的かつチャレンジングであり、こうした思いを共有してもらえらる皆さんと一緒に仕事ができる日を心待ちにしています。



マイナンバーキャラクター「マイナちゃん」と

制度をつくり、動かすということ -住民目線で国のあり方を考える-

